

肢体不自由特別支援学校の幅広い児童生徒の実態に 即した教科指導用チェックリストの作成

－ 国語科・算数科の内容をふまえた項目の選定 －

学籍番号 229203
氏名 薄雲 裕介
主指導教員 高橋 登
副指導教員 梅川 康治

1. 研究の課題と目的

1.1 特別支援学校学習指導要領等の改訂と学びの連続性

2016年12月21日の中央教育審議会答申を踏まえ、2017年4月に特別支援学校幼稚部教育要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が改訂告示された。今回の特別支援学校学習指導要領等の改訂における基本的な考え方として、社会に開かれた教育課程の実現、育成を目指す資質・能力、主体的・対話的で深い学びの視点をふまえた指導改善、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立など、初等中等教育全体の改善・充実の方向性を重視するとともに、障害のある子どもたちの学びの場の柔軟な選択を踏まえ、幼稚園、小・中・高等学校の教育課程との連続性の重視、障害の重度・重複化、多様化への対応、自立と社会参加に向けた教育の充実が示された。

1.2 肢体不自由特別支援学校の「学びの連続性」と教科指導における課題

特別支援学校学習指導要領等において、学部段階間及び学校段階等間の連続性も重視することが示されているが、実際には、学部間の教科指導の系統性や連続性について課題が見られる場合が多い。この点について成田（2018）は、各教科等の目標及び内容の系統性や特質の分析及び乳幼児期の発達の系統性等を踏まえた指導目標・指導内容を導き出すために、校内で共通に用いる基軸をもつこと、自立活動を主として編成する教育課程において、児童生徒の全体的な発達の状況及び課題の関連性を踏まえた上で指導を重点化するシステムを整備することにより、指導の根拠及び児童生徒の学習状況が明確になり、学びの連続性を保障できるとしている。

実習校である肢体不自由特別支援学校は、幅広い実態の児童生徒が在籍しており、児童生徒の実態把握を行うためのツールとして、勤務校は、独自の「児童生徒実態把握チェックリスト」を使用しているが、対象月齢は24か月までとなっている。それ以上は、「学習到達度チェックリスト2014」を使用しているが、同チェックリストは、スコア24から72までの段階意義の整理と行動項目の検討が必要であることが指摘されている（徳永，2019）。こうした点から、勤務校の教科指導において、児童生徒の実態を踏まえた上で指導を重点化するシステムを整備するにあたり、月齢24か月以上に対応したツールの開発が必要であると考えられた。

1.4 研究の目的

本教育実践研究では、肢体不自由特別支援学校に在籍する幅広い児童生徒の実態に対応

することができるとともに、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示されている知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の内容を踏まえた教科指導用のチェックリストを作成することを目的とする。

2. チェックリスト作成のための手続き

2.1 チェックリストの項目の収集及び整理

基本学校実習Ⅱでは、国語科、算数科のチェックリストを作成するため、乳幼児期のことばやコミュニケーション、数概念等の発達に関する文献研究に取り組み、項目の収集、整理作業を中心に取り組んだ。収集した各項目は、広島県立福山特別支援学校の10領域の分類方法を参考に整理し、その後特別支援学校小学部・中学部学習指導要の国語科、算数科の内容を基に再度分類した。各項目の月齢については、各種心理検査を参考にした。

2.2 国語科、算数科のチェックリスト作成

国語科・算数科のチェックリストの作成における課題として、0ヶ月～72ヶ月を対象とした包括的な内容であるため、全体の項目数が多くなることにより、チェックに要する時間がかかり過ぎる等、運用するにあたり教員の負担が懸念された。そこで、国語科、算数科ともにA3用紙1枚に収まるように、各段階の項目数の調整及び項目の精選を行った。各段階の項目数は、実習校の児童生徒の実態を考慮し、0から24か月については、「児童生徒実態把握チェックリスト」の項目数に近づけるなど、他の段階よりも項目数を増やした。作成したチェックリストは、小学部・中学部・高等部3学部合同で開催される教育課程検討委員会に提出し、複数の教員で確認作業を行い、項目や文言の修正を行った。

3. 研究の成果と課題

作成した国語科・算数科のチェックリストの作成に時間を要したため、次年度からの運用に至らなかった。そのため、各項目の内容や項目数が、児童生徒の実態把握において適切だったのか、実際にチェックするにあたり要する時間等、具体的な情報を得ることができなかった。特に、本研究において課題であった24か月から72か月について、今後さらなる検討が必要である。今後、試行的に用いる中で課題を抽出し、適宜改訂していくことにより、学校現場で有用な実態把握のためのツールにしていきたい。

参考文献

- 徳永豊（2019）障害の重い子どもの目標設定ガイド 第2版 授業における「Sスケールの活用」．慶応義塾大学出版会．
- 成田美恵子（2018）学習に難しさがある肢体不自由児への目標設定と指導の重点化.筑波大学附属桐が丘特別支援学校研究紀要,第53巻,1-12.